

### 2-30-3 徳川将軍家墓所

戦前、旧徳川将軍家霊廟は御霊屋（おたまや）とも呼ばれ、増上寺大殿の南北（左右）に建ち並んでいた。

墓所・本殿・拝殿を中心とした多くの施設からなり、当時の最高の技術が駆使された厳粛かつ壮麗な霊廟は、いずれも国宝に指定され格調ある佇まいであった。

その後昭和 20 年（1945）の空襲直撃で大半が焼失し、残った建物もその指定を解除された。

正面の門は旧国宝で「鑄抜門（いぬきもん）」と言われ、文昭院殿霊廟（徳川家第 6 代将軍家宣公）の宝塔前「中門」であったものを移築した。

左右の扉は共に青銅製で 5 個ずつの葵紋を配し、両脇には昇り龍・下り龍が鑄抜かれ、その荘厳さは日光東照宮と並び評された往時の姿を今に伝える数少ない遺構である。

墓所には、第 2 代秀忠公・第 6 代家宣公・第 7 代家継公・第 9 代家重公・第 12 代家慶公・第 14 代家茂公の 6 人の将軍のほか、崇源院（第 2 代秀忠公正室、家光公の実母、お江）、静寛院宮（第 14 代家茂公正室和宮）ら 5 人の正室、桂昌院（第 3 代家光公側室、第 5 代綱吉公実母）はじめ 5 人の側室、及び第 3 代家光公第 3 子甲府宰相綱重公ほか歴代将軍の子女多数が埋葬されている。

説明板より